先輩職員からのメッセージ

MESSAGE_01 小なりといえども「官房総務課」

法制企画調整部企画調整監
尾形　孝史

総務課は、各府省庁で言えば「大臣官房総務課」に相当し、組織の人事・会計その他一切の事務を一手に担う部署です。もちろん、各府省庁と我々衆議院法制局とでは組織の規模は比較になりませんが、我々には、小なりといえども「官房総務課」として、衆議院法制局が常に議員から信頼される組織であり続けられるため力を尽すという、大きな使命があります。

総勢100名足らずの小規模な組織なので、課が扱う事務の１件１件の作業量は決して多くないのですが、一方で扱う事務の種類は組織の規模には比例しません。具体的には、例えば人事関係の事務としては、職員の採用、各府省庁との人事交流、地方自治体からの派遣研修などが、会計関係の事務としては、財務当局に対する予算交渉や、限られた予算を有効活用するための工夫などが挙げられます。そのような、組織の維持と発展のために必要不可欠な業務に、担当者として主体的に携わることができることは、この仕事の最大の魅力だと思います。

加えて、当課は子育て中の職員も多いので、職員同士がしっかりとコミュニケーションを取りながら、上手く時間を融通し合って仕事と家庭の両立を実現する雰囲気があります。

上司の指示を待って与えられた仕事だけをこなすのではなく、組織の将来を見据えて積極的に行動することができる、やる気と元気のある方に、ぜひ我々とともに局の「官房総務課」を支える一員となり、組織の発展に貢献していただきたいと考えています。

MESSAGE_02 信頼される組織であるために－「情報」の「基盤」を整備する－

法制企画調整部調査課長
梶山　知唯

最新の学説や現行法の解釈を確認するために内外の文献を渉猟し、法律案をはじめとする様々な文書を起案する―いずれも、立案部門の職員が日々行っていることです。

衆議院法制局は、これまで、様々な議員の「政策(おもい)」について、議員等の依頼を起点に、内外の文献やインターネットを通じて収集した情報を整理し、多年の経験により培われた知恵を出し合いながら、これらを論理立てて「法律(かたち)」にすることで、議員等から大きな信頼を得てきました。

このとき議員等との窓口役を務めるのは立案部門の職員ですが、実際のところ、一連の業務を円滑に遂行するためには、図書係と情報システム管理係を擁する調査課の下支えが欠かせません。すなわち、立案部門の職員が立案の業務に集中できるのは、専門的な知見を有する調査課の職員が、日々文献をアップデートし、また、情報端末の維持管理に努めているからこそ。その意味で、私たちもまた、衆議院法制局内の情報基盤の整備を通じて、議員等の黒衣としてその「政策(おもい)」を「法律(かたち)」にしているのであり、そこに私たちの働きがいがあります。

近年は、コロナ禍によるテレワークやウェブ会議の普及により、情報システム管理において求められるスキルも高度化・多様化しているように感じています。早くから様々なデジタルデバイスに触れて成長してきた皆さんがその感性をいかんなく発揮し、立案部門の職員と共に衆議院法制局を力強く引っ張っていってくれることを期待しています。

MESSAGE_03 きっと見つかる「自分の居場所とやりがい」

法制企画調整部長
森　恭子

「法律を創る法制局で、自分は何ができるだろうか」と漠然と思いながら、このメッセージを読んでいる方もいるかもしれません。でも、大丈夫です！衆議院法制局の職責は、国会議員と二人三脚でその立法活動をサポートすることですが、右脚・左脚となって一緒に駆け抜けるのは、立案部門だけでなく、総務部門でもあるからです。

すなわち、総務部門は事務全般を行うことはもちろん、立案部門と連携しつつ、働きやすい職場環境を整備し、「風通しのよい」風土を醸成することにより、局内全体の業務が円滑に遂行できるようにするという重要な役割を担っていますが、お互いに配慮や思いやりを持ち、コミュニケーションを取りながら、それぞれの役割を精一杯果たす、それによって初めて、組織が一丸となってその職責を果たすことができるのです。

特に、総務部門をとりまとめる部長として大切にしているのは、ビジョンを共有し、部下に寄り添い共感しながら、堅実かつ時に柔軟さが求められる仕事ぶりを支えること、そして、私たちの財産は職員一人ひとりであり、職員のために、そして組織のために行動し、責任を持って改善・改革を最後までやり遂げること、この二つであり、皆が気持ちよく働ける職場であるよう日々努めています。

今後、これまで以上に二人三脚で国会議員をサポートしていくために、総務部門という脚(であり(屋台)骨！)は決して欠くことはできません。そんな総務部門には、「あなたの居場所とやりがい」がきっとあるはずです。私たちと一緒に見つけてみませんか？